

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 7月 2日 更新

事務事業名		職員給与支給事務(企業会計)				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり			所属部	水道局	課長名	水野 孝春
	施策	9	住環境の充実			所属課	上下水道課	担当者名	九重 浩光
	基本事業	24	水の安定供給			所属班	庶務料金班	(内線)	1162
予算科目		会計企業	款	項	目	事業連番	法令根拠	地方公営企業法 企業職員の給与の種類及び基準に関する条例、同施行規程 成果優先度評価結果 : ⑫ コスト削減優先度評価結果 : -	
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	企業会計(水道事業・工業用水道事業)に属する職員の給与支給に関する事務である。 旧合志町は昭和37年度から、旧西合志町は昭和38年度から水道を計画的に整備し、清浄にして豊富低廉な水の供給を図り、公衆衛生の向上と生活環境の改善のため事業を進めている。また、平成8年度から造成の始まったセミコンテクノパーク(当時:第2テクノパーク)のインフラ整備として、工業用水道も整備が始まり、平成18年度に隣接して造成された原水工業団地へも工業用水道の整備を図った。 なお、各事業の地方公営企業法適用は、旧西合志町水道事業が昭和42年度、旧合志町水道事業が昭和51年度、工業用水道事業が平成9年度で、合志市誕生と共に、水道事業を統合し、工業用水道事業を引き継いだ。 合併及び組織統合に伴い業務量は増加しているが、職員数は、減少している。
【業務の流れ】	企業職員に対する給料及び各種手当の支給に関し必要な予算の編成・執行を行う。 給料・各種手当(毎月)、期末勤勉手当(6月・12月)支給の事務処理を行う。
【主な予算費目】	総係費:給料、手当、法定福利費
【意見や要望】	特になし
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO) 職員数:平成23年4月 11人(水道事業10人、工業用水道事業1人) 支払回数:給与12回、賞与2回		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 職員数:平成24年4月 9人(水道事業8人、工業用水道事業1人) 支払回数:給与12回、賞与2回
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:給与・賞与支払い回数	回	人員削減による支給額の減少
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
企業職員	人	→ア:企業職員数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
正確かつ適正な支給を受ける。	%	→ア:支払いが滞らなかった件数の割合
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
給与及び賞与の支給回数は条例で定められているので、その回数を成果指標に設定できない。 正確に支給することは当然のことであるため、支払が滞らなかった件数の割合100%とした。		全体計画
		～年度
		0

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
① 活動指標		ア	回		14	14	14	14	14	14	14	14
		イ										
② 対象指標		ア	人		12	11	9	8	8	8	8	8
		イ										
③ 成果指標		ア	%		100	100	100	100	100	100	100	100
		イ										
投資 入費 量	事業 内訳	財 源	国庫支出金	千円								
			都道府県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円	83,958	80,031	79,861	65,315	67,799	69,300	69,300	69,300
			繰入金	千円	669	796	645	648	650	700	700	700
			一般財源	千円								
	費		(A) 事業費計	千円	84,627	80,827	80,506	65,963	68,449	70,000	70,000	70,000
			(A)のうち指定経費	千円	84,627	78,554	78,935	64,465	66,994	68,500	68,500	68,500
			(A)のうち時間外・特勤	千円	0	2,273	926	850	1,455	1,500	1,500	1,500
	人 件 費		正規職員従事人数	人	5	5	5	1	5	5	5	5
			延べ業務時間	時間	19	50	20	48	50	50	50	50
			(B)人件費計	千円	78	201	80	195	201	201	201	201
トータルコスト(A)+(B)			千円	84,705	81,028	80,586	66,158	68,650	70,201	70,201	70,201	

事務事業名	職員給与支給事務(企業会計)	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	----------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は24年度事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 滞りなく支給するのは当然であるため、達成する見込みである。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 現状が効率的であり、向上の余地はない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 企業会計のため、類似する事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の予算で取り組んでおり、削減の余地がない。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の人員で、他事業との兼務で当たっており、削減の余地がない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 すべての使用者(水道・工業用水道)に受益機会があるため、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 企業会計(水道事業・工業用水道事業)において、業務の一部は民間に委託して実施しているが、本職員給与支給事務(企業会計)の役割を分担することは事業そのものを民間等に委託することであり、根幹となる事務であるため、行政が事業を進めるべきである。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

目標達成度について、滞りなく支給するのは当然であり、現状維持を継続していく。
--

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 滞りなく支給するのは当然であり、現状維持を継続していく。				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持		○																									
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												